

感染症対応マニュアル

はじめに

このマニュアルは、あかな保育園における職員が、感染症等に的確かつ迅速に予防または対応するために必要な事項を定めて、園児・職員の生命・健康を守ることを目的とする。

一般にウイルス・細菌・寄生虫などの微生物によって引き起こされる病気をまとめて感染症といい、人から人（生体から生体）へと移っていく場合を伝染病と呼びます。

保育園のような集団生活では、伝染性の病気は流行する危険性が高くなります。衛生管理に努め、病気を早期に発見し、適切な対応をすることが集団感染を予防するために必要となります。

感染症が出た場合は、直接接触をさけるために、隔離したり、環境を整えたり、消毒をする等の細やかな配慮が必要となります。

1. 衛生管理

職員

1. 職員が感染源とならないために

あかな保育園で働く全ての職員は、年一回の健康診断を必ず受けなければなりません。保育園指定の健康診断が受けられない場合は、各自で受診し、保育園に報告して下さい。また、これとは別に調理担当者及び0歳児担当者一人は、毎月一回便の細菌検査を必ず受けなければなりません。

職員は、職場が乳幼児施設であることを認識し、自己の予防接種歴、既往歴を確認し、不確実なときは、医療機関でその抗体の有無を調べ、早期に予防接種を受けておく方が望ましい。職員は、自らの健康に留意し、日々の生活の中で体調が優れないときは、早めに医療機関の受診をしなければなりません。特に注意が必要なものとしては、インフルエンザ様の発熱時は2日以内に、眼充血や目やにがある場合は、速やかに専門医へ受診することが大切です。

2. 職員の服装及び衛生管理について

- (1) 清潔で動きやすい服装、汚れたら着替えられるように準備しておくこと。
- (2) アクセサリー等の除去（ネックレス、イヤリングなど）。
- (3) 爪は短く切る。勤務中はマニキュアをしない。
- (4) 手に傷があるときは、食品に直接手を触れない。
- (5) 衛生管理の基本は、手洗いにあることを常に意識し励行すること。
- (6) トイレ以外の手ふきタオルは個人別所持し、毎日また汚れたらその都度交換する。

園児

- (1) 爪の手入れは週一回してもらうことを保護者にお願いする。
- (2) トイレ使用后、食事前、動物を触った後は、必ず手洗いをするよう指導する。
- (3) 園児のタオルは個別とし、毎日清潔なタオルを持って来てもらう。

2. 予防接種について

- (1) 入園時、面接時に、既往歴、予防接種状況を把握する。
- (2) ワクチンで予防できる疾患は、接種時期に積極的に受けるよう勧める。
- (3) 市から公報される予防接種スケジュールを参考にして、保護者への相談、指導に役立てる。

3. 注意事項

- (1) 保育士は感染症の症状の見られる園児の早期発見に努める必要があります。
- (2) 職員は日頃から園内の環境整備に心がけ、ゴミや汚物の処理をきちんと行うことが重要です。
- (3) 職員は、感染症が発生したときや、発生しやすい季節などには、保護者に注意を呼びかける他、感染拡大の防止に努める必要があります。
- (4) 回復後は、必ず「登園許可証」の提出をもって、登園を可とします。ただし、インフルエンザの場合は、特別のことがない限り、保護者記入欄の記入をもって可とします。

病名	主な症状	登園のめやす
インフルエンザ	高い発熱、頭痛、食欲不振、関節の痛み、鼻汁、のどの痛み、せきなど様々は症状を伴います。 痛み、せきなど様々は症状を伴います。	発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過してから
麻疹(はしか)	はじめの2～3日は、熱、せき、鼻水、目やになどのかぜ症状が出、いったん熱が下がりますが、再び高熱が出ると同等に顔、耳、くびの後ろや胸の上方から発疹が全身へ広がって行きます。	解熱後3日を経過してから(約2週間)
風疹(3日はしか)	感染して2～3週間後に、赤くて小さな発疹が全身にできます。発疹は麻疹に似ていますが色も薄く細かいことが多いものにおです。	熱がなく、発疹が消えてから
水痘(水ぼうそう)	感染して2～4週間後に、顔、頭髪部、胸、お腹、背中などから紅斑が出現し、数日以内に水ぶくれができます。	すべての発疹がかさぶたになってから
流行性耳下腺炎	耳の下(耳下腺)が腫れて痛がります。普通左右とも腫れますが、片方だけのこともあります。腫れは1週間程度で軽快して行きます。	腫れがひいてから全身状態が良好になるまで
結核	数週間から数カ月続くか、あるいは現れては消えることを繰り返すせき、たん、発熱など(多くは微熱)	感染の恐れがなくなってから
咽頭結膜熱(プール熱)	39～40度の高熱が3～7日間続き、強いのどの痛みがあり、目は充血します。プールに入らなくてもうつります。	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎(はやり目)	目が充血し、腫れて目やにが出ます。	症状が消えてから
百日咳	くしゃみ涙が出る、軽いせき、微熱といったかぜのような症状からやがて激しくせきこむようになります。	特有のせきが止まってから
腸管出血性大腸菌感染症(O157など)	腹痛と激しい血便があります。	症状が治まり、菌陰性が確認されてから
带状疱疹(ヘルペス)	胸、くび、顔、腰などに小豆大の水疱が帯のように分布するとともに、ぴりぴりとまたは締めつけるような痛みを伴います。	すべての発疹がかさぶたになってから
マイコプラズマ肺炎	発熱、乾いた激しいせきが出、全身倦怠感、頭痛などを伴います。	熱や激しいせきが治まってから

病名	主な症状	登園のめやす
手足口病	手、足、おしり、口の中などに小さな水ぶくれができます。時に高熱が出ることもあります。	熱がなく、普段の食事ができること
伝染性紅斑 (りんご病)	ほほにりんごのような紅斑ができます。また手足にも赤い斑点やまだら模様ができ、かゆくなることもあります。	全身状態が良いこと
ウィルス性腸炎 (ノタ・ロタなど)	突然吐き始め、水のような下痢(レモン色～白色)になります。熱が出ることもあります。	下痢などの症状が治まっていること
ヘルパンギーナ	乳幼児に流行する夏かぜの一種で、38～40度の熱が出て、のどの奥に水ぶくれができます。	熱、口内炎がなく 普段の食事ができること
突発性発疹	多くは一歳前後の乳幼児にみられ、三日程度の高熱が続き、解熱するとともに発疹がみられます。	解熱し全身状態が 良いこと
伝染性膿痂疹 (とびひ)	鼻周囲の小さな水ぶくれ、かさぶたからはじまり、かいたり、かさぶたを取ったりしているうちに、やがて全身にも水ぶくれが広がります。	しめっている部位 が被覆できる程度 のものであること
伝染性軟属腫 (水いぼ)	接触感染により、2～5ミリぐらいの中央がくぼんだ軟らかくて、白っぽいいぼができ、体や手足に広がって行きます。	(かきこわし傷から 汗が出ているとき は被覆すること)

(麻疹、結核、腸管出血性大腸菌感染症に一人でもかかったら中部保健所へ連絡します。)

※ 頭じらみ症

家庭と園で協力して頭髪をチェックし、卵がなくなるまで次のようにする。

- ・成虫や卵は、すきぐしでブラッシングしたり、卵は手でしごいて取ったり、一本づつはさみで切ったりして除去する。
- ・寝具類は日光消毒をする。
- ・帽子等は別保管をする。
- ・午睡時は、他児の頭と接触しないよう配慮する。

※ ぎょう虫症

- ・毎年4月・10月に検査を行う。
- ・陽性の場合、かかりつけ医が薬局に相談して駆虫を行う。
- ・駆虫は家族全員一斉にする方が効果的である。
- ・駆虫後再検査し、陰性の結果を提出してもらう。
- ・陰性の結果未提出の場合は、プールに入れない。
- ・寝具等は日光消毒をする。(卵は直射日光に弱い)

登園許可証

社会福祉法人 あかな保育園

園児名 _____

生年月日 平成 年 月 日生

上記の者は、(病名) _____ が軽快し、
伝染病の予防上支障がなく、又集団生活する上でも、支障がない
と認めたので、登園を許可します。

平成 年 月 日

住 所 _____

病 院 名 _____

医 師 名 _____

印

登園届(保護者記入)

あかな保育園 園長 様

園児名：

生年月日：平成 年 月 日生

住所：

上記園児は、インフルエンザ(型)に感染しているものと診断されました。

*症状出現日：平成 年 月 日

*診断日：平成 年 月 日

医療機関名：

* 発症した後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過後、登園可能となります。
下記体温測定結果記入後保育園へ提出して下さい。

保護者記入欄

下記のとおり、発症した後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過しましたので、
登園停止措置の中止をお願いいたします。

体温測定月日時	測定時間：体温	測定時間：体温
月 日	午前 時 分： 度	午後 時 分： 度
月 日	午前 時 分： 度	午後 時 分： 度
月 日	午前 時 分： 度	午後 時 分： 度
月 日	午前 時 分： 度	午後 時 分： 度
月 日	午前 時 分： 度	午後 時 分： 度
月 日	午前 時 分： 度	午後 時 分： 度
月 日	午前 時 分： 度	午後 時 分： 度
月 日	午前 時 分： 度	午後 時 分： 度

平成 年 月 日 園児氏名：

保護者氏名：

印